（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3390200495		
法人名	ラブネットサービス株式会社		
事業所名	とんがりぼうし		
所在地	倉敷市玉島柏島688-1		
自己評価作成日	平成25年3月日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	p://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200495-00&PrefCd=33&VersionCd

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山市北区南方２丁目１３－１　県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成25年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様が「その人らしく」生活していただけるよう、「桜梅桃李」の理念のもとに、ケアしています。ご家族様とスタッフが、情報共有し、コミュニケーションを深められるよう努め、入居者様にとって、何が一番いいことか、また、ご家族様の思いも受け止めながら、支援につなげています。入居者様、ご家族様、職員の笑顔あふれるホームを大切にしています。
※ 「桜梅桃李」とは、桜には桜の良さがあり、梅には梅の良さがある。桃は桃で素晴らしく、李は李で美しい。人まねをしなくても、それぞれの個性を生かし、輝いていける。という意味。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの玄関を入ると正面に長椅子が置いてあり、その横に姿見の鏡。家庭的で寛げる雰囲気だ。リビングルームの壁には、開設して以来、3年分の行事やイベントの写真を、訪問時や正月に家族に見てもらおうと「とんがりぼうしの歴史」と題して掲示してあった。職員に得意なものを担当してもらっていると管理者が言う様に、それぞれの趣味を活かし、センスや才能を存分に発揮して、職員の役割分担が出来ている。職員同士も仲が良い。また、昨年、笠岡市であったNHKのど自慢の予選会に娘さんと参加した男性のAさんは、「上を向いて歩こう」を熱唱したそうだ。ホームの理念「桜梅桃李」の通り、「自分らしく、その人らしく」の生活をしっかり支え、「あるがまま」を大切にしながら、「とんがりぼうし」はまだまだ進化している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ことあるごとに言葉にし、職員ひとり一人が日々心掛け、ミーティングも常に理念をもとにしたものとなっている。	ホームの理念は「桜梅桃李」、「何気なく、さり気なく支える」ことをモットーに、その人らしく暮らすことを大切にしている。ここでの生活は利用者中心であり、職員はそこで仕事をしているという感覚で、尊重し支えながら共に歩んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域のお祭りや、みこしに、ホームに立ち寄って頂き、共に楽しい時間を共有している。ホームの新聞を、公民館、ごみステーションに張り出させてもらい、地域住民にもみてもらっている。	毎月発行している「とんがりぼうし新聞あるがまま」で、地域に向けて情報提供したり、町内の文化祭に参加、秋祭りに神輿がホームに立ち寄ってくれる等、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、事例報告し、具体的な認知症状、身体状況等を上げ、認知症の理解につなげれるよう、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーと積極的に意見交換、質問、要望、提案し合いながら、サービスの向上に活かしている。 （23・目標計画実施）	市町村の担当者、民生委員、町内会長、家族等の参加があり、定期的に開催している。入院した利用者の事例報告、幼稚園・保育園との交流会を検討する等、活発な意見交換をしている。地域防災対策についても議題に挙げているところである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は、市の介護保険事業者連絡協議会に加入漏れし、研修参加等、出来なかった。疑問点や、質問がある時だけ、連携をとるにとどまった。	市の介護保険事業者連絡協議会は1年更新であり、研修会等の案内があると参加し、他の事業所との意見交換や交流も出来ていたが、今年度は手続きの機会を逸したので、来年度は再加入する予定である。市の担当者へは随時、相談や情報提供をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守り法を徹底し、安全面に配慮し、センサーマット、玄関センサーを使用する等し、自然な暮らしを支えるようにしている。	身体拘束は一切していない。一部の利用者に、事故防止や安全面を考慮し、玄関センサーやベッドの足元にセンサーマットを置いている。これ等の感知センサーだけでなく、日常的にさり気なく見守りをし、支援の仕方も職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングにおいて、よく語り合うことにより、入居者様の虐待につながらないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員に説明をおこなっている。実際に後見人制度を利用している利用者様もおり、後見人と直接、話すことで職員も理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、面会時に、利用料金や起こりうるリスク、施設の方針、重度化した時の料金変更等、十分な説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、電話や面会時に近況報告し、積極的に意見交換を行っている。また、家族会では、職員が個別にご家族と話し合う等し、なんでも言って頂ける様な雰囲気づくりに努めている。	家族会を「良寛荘」で開き、昼食を共にしながら、家族同士で語らい、意見交換をしながら交流を図った。家族の訪問もよくあり、随時、話し合える機会がある。また、夏祭りには花火、ビンゴゲーム、焼きソバの屋台等で祭りの楽しさを満喫できるように盛り上げ、家族の参加もあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングだけでなく、日々の業務の中で気づいたことや、ケアについて、職員に自由に提案してもらい、常時意見交換し、反映させている。相談役との個別面接も行った。	毎月スタッフ会議を開催し、職員は議題を1つ必ず持つようにし、業務内容の共有だけでなく、個々の思いや考えを自由に話し合っている。管理者や相談役に個別に相談することもあり、意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に来、現場の雰囲気の確認、職員と話す中で、状況把握している。また、個別に管理者と常時話し合える機会を設けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修に、職員が交代で参加できるように積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加し、他施設と意見交換や交流を図り、サービスの向上を目指している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人に会い、話す中で、生活状況を把握し、要望、疑問点を聞く時間を作っている。入所後は、施設の雰囲気に馴染んで安心していただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護の悩みを受容し、他の家族も同様の悩みをもっていると話し、事業所としては、どのような対応ができるか、事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの早期実行を基本とし、状況確認し、専門的な視点から改善に向けた支援の提案、相談するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の可能性を見極め、できることをして頂き、出来そうな事は、積極的に為し、やりがい、生きがいを持てるように、日々努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をこまめに報告・相談し、コミュニケーションをとり、協力、共有して頂ける関係を作れる様努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人は自由に面会でき、贈り物のお礼の電話をする等、連絡を取り持ったり、暑中見舞い、年賀状を出す等、つながりが途切れないよう、努める。	誕生祝に神社へ家族と一緒に出掛ける人、自宅へ帰る人、友人と「良寛荘」で食事を楽しむ人、娘さんと「のど自慢」へ参加する人等、家族、友人、地域の人等とのつながりを大切にし、生活が活性化するよう支援している。また、家族もよく訪問してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞き、不安解消に努めたり、利用者間の関係が円滑になるよう、協同作業やレクレーションを通し、働きかけをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合も、生活環境、支援の内容、注意点など、情報提供し、細やかな連携をとるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりあいの中で、「早く家に帰りたい」等、利用者の言葉や表情などから、真意を推測、確認、把握し、家族とも話し合う機会を積極的に作っている。	「私、ずっとここにおれるん？」「おはぎが食べたいな～」「家に帰りたい、はよ帰りたい」等、利用者の言葉の裏にある思いや真意を読み取り、職員間で共有し、家族とも話し合い、家族が頻繁に訪問したり、外泊を支援する等、本人の意向に添ったケアをしている。	認知症ケアの最も大切な事は利用者の気持（喜びも苦しみも）をどれだけ察知してあげられるかであろうと思う。利用者は9人だけである。その人達が、このホームで何をして暮らしたら一番幸せになるかを職員全員で考えて欲しい。その考えをケアプランの基にしていくと具体的な計画となるだろう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握する為、事前に家庭訪問し、生活歴や暮らし方、生活環境を本人や家族から聞き取りをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを尊重し、その人らしく一日を過ごしていただけるよう、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、関わりあいの中で意見を聞いたり、体調、表情の変化、観察をおこたらず、スタッフ間でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行っている。 （23・目標計画実施）	生きたアセスメントシートになるように、職員間で意見を共有しながら、利用者の発した言葉を業務日誌、支援記録等に書き留め、その思いを読み取りながら、ケアプランに活かしている。成年後見制度を利用している人もおり、後見人とも、よく話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、本人の表情や言葉を、生活の様子を記録し、申し送りノートを活用する等、情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ、買い物、ドライブ、散歩、必要な支援は柔軟に対応し、一人ひとりの満足を高められるよう努めている。また、個別の買い物が多い方については、ご家族の協力も得ながら、支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、公民館、ごみステーションにホームの新聞を貼らせて頂く等し、地域で安全で豊かな暮らしを送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医となっている。内科以外の受診や通院は、基本家族対応して頂き、急な受診時には、職員が対応するようにしている。	ホームの協力医は往診に来てくれる等、日頃から連携が取れている。基本的には眼科等他科受診は家族に付き添いをお願いしているが、緊急時や家族の支援が難しい時は、職員が通院介助をしている。週1回の訪問歯科を利用している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、医療の知識を勉強し、利用者の健康管理や相談を協力医に24時間連絡がとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、在所中の様子や、支援方法を情報提供し、定期的に職員が見舞い、家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、話し合いを重ね、医師、職員が連携をとり、安心し納得した最期が迎えられるよう、随時意思を確認している。	家族の強い要望があり、医療連携や家族と話し合いながら、職員が「枯れ木が枯れるように、人生の最期を静かに迎えた」という利用者の看取りをした事例もある。医療との連携、家族の協力があって始めて出来る事であり、今後も出来る限り、本人・家族の意向に添って支援していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医の医師や看護師に、積極的に応急手当や初期対応の仕方を聞いたり、夜間帯の緊急対応マニュアル、緊急連絡網を整備し、周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、入居者と一緒に、避難訓練をしている。又、町内会長や、民生委員にも訓練の様子をみてもらった。	夜間を想定した避難経路の確認等の訓練を地域の人も参加して実施した。他県のグループホームの火災事故の教訓から、倉敷市の集団指導では、具体的な災害対策を立てるようにとの話しや、消防からもスプリンクラー設置の再調査がある等、近年、防災意識が高まっている。	地震発生時、この地域では津波や河川の氾濫時は高台の「良寛荘」が避難場所になっているが、さらに今後の防災対策として、転倒防止や落下物での事故防止等の対策を、職員間で話し合ってみるのも良い。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんなことをしたいか、何が希望か、本人の思いを尊重し、自己決定しやすい言葉かけをし、さりげないケアを心がけている。	利用者が答え易い短い言葉で聞いている。例えば、選択肢は「○か×」「はい、いいえ」等、意思決定しやすい会話を心がけている。発語が難しい人には、表情や仕草から、その思いを読み取り、さりげない声掛けやケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、好物、趣味、余暇の過ごし方等、複数の選択肢を提案し、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしのペースを大切にし、外出、買い物、散歩、外気浴、ドライブ等、希望に合わせた支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な、訪問理美容、更衣の際の洋服選びや、洋服の買い物、化粧等、本人のこだわりのスタイルも尊重し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の際、好みのおやつを買ったり、食事は、調理から配膳、後片付けまで、食事に関わる事すべて、何らかの形で利用者と共にしている。	調理場で職員と料理の味付けや盛り付けをしている人、その隣は野菜を洗ったり切ったりしている人等、賑やかで楽しい会話が溢れていた。「歯をはずしても食べれるよ」と言いながら、丼物のカツを美味しそうに食べている人もいて、利用者と職員の会話が弾んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、毎食の食事量をボードを使い、チェックしている。検食簿を利用し、食材やメニューが重ならない様にしたり、入居者の好みや嫌いなものを、普段の会話から把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度、訪問歯科を利用し、口腔状態の把握に努めている。また、口腔マッサージや、ケアの仕方も積極的に習うようにしている。自立の方は声かけし、出来ない方は、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎防止などにも努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、定期的な声かけ、誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。また、立位が不可な利用者は、安楽の為、ベット上でパット交換している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、紙パンツの人、パット使用の人、自立の人等、それぞれに合ったタイミングで声掛けしている。居室にトイレは設置されているが、ポータブルトイレを使用している人もいる。職員は「その人らしく」を常に心がけ、さり気なく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックをし、摂りたがらない方には、個別で好物のコーヒーを購入し提供している。毎日乳製品を摂取できる工夫をしたり、家事や、日々の生活を通し、体を動かす様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めず、利用者の希望や体調に合わせ、入浴して頂いている。入浴拒否のある方は、病院の往診時間に合わせ、医師から声かけしてもらい、気分良く入浴していただけるよう、工夫している。	入浴は前日に入っていない人を優先に声掛けしているが、本人の意思を尊重している。入浴拒否の人には、医師の往診日に先生から声を掛けてもらうと「分かりました」と入ってくれる事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで午睡したり、安眠できるよう日中活動も配慮し、メリハリをつけるため、昼食後は、ホールを消灯したりし、生活のリズムを整えるよう努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人ファイル、薬ケースに保管し、変更があった場合は、業務日誌に記入し、生活記録表の備考欄に、いつから服薬開始になったか、わかるよう記載している。口頭でも申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとり一人の好きな事、笑顔になれる事、はり合いになるものを共に探し、達成感、喜びを感じていただけるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物、特別な外出行事、ドライブ等、ひとり一人の希望を把握し、添えるよう支援している。また、昨年12月は、家族会として良寛荘で昼食会をし、家族で食事を楽しんでいただいた。	秋の行楽には倉敷の美観地区に出かけ、ランチを食べ、散策を楽しんだり、家族や友人と外食に出かける人、夫とドライブや食事に行く人もいる。また、職員と買い物に行き、本を自分で購入したり、スーパーで袋詰めの手伝いをしてくれる人もいる。墓参り、法事、神社へ参詣等、本人の希望に添った外出支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、入居者様全員、家族が金銭管理している。その為、家族と相談し、おこづかい程度のお金を別口で用意してもらったり、立替え金で買い物し、本人が安心、満足できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に、暑中見舞い、年賀状を出す支援を行っている。届け物のお礼や、近況報告を電話や手紙で本人ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたフロアーの飾りつけや、玄関の花々は、利用者と共に考え、共に作り、居心地良く過ごせるよう、工夫している。	広いリビングルームはゆったりと寛げる空間であり、男性利用者のAさんのハーモニカの伴奏に合わせ、皆で春の歌を数曲歌った。壁には利用者と職員が作った貼り絵(桜・干支の巳）のカレンダーやホームの歴史とも言える数々のイベントの写真が飾られ、利用者のコメント付きの笑顔が素敵だった。	ハーモニカを聞かせてもらい、何曲ものメロディを上手に吹かれ素晴らしいと思った。この特技をもっと多くの人と楽しみ、活性化につなげるには、例えば、外部から人を呼んで一緒に吹く機会を作り、楽しい思い出を作る等、職員間で話し合ってみてはどうだろう。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、お気に入り、落ち着ける場所があり、自由にすごせるようにしている。そこで一人で過ごしたり、ソファーでは、気の合った利用者同士が、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が納得するよう、家具等設置し、仏壇、位牌を置く方もおり、本人が居心地良く過ごせるよう、工夫している。また、伝い歩きがしやすように、安全面にも配慮した設置をしている。	採光に配慮した明るい室内には、使い慣れた家具や写真等、思い出の品々が置かれ、ベッドでお気に入りの人形と一緒に寝る人もいる。トイレや洗面所が設置してあるので、プライバシーも保たれ、居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、その都度職員で話し、事故なく自立支援につなげていけれるよう支援している。		